琉球大学学術リポジトリ

# 沖縄本部町字渡久地に伝わる臼太鼓歌の記録



| メタデータ | 言語: |
| --- | --- |
| | 出版者: 琉球大学教育学部 |
| | 公開日: 2011-04-22 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 渡久地, 政一, Toguchi, Masakazu |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/19227 |

# 沖縄本部町字渡久地に伝わる臼太鼓歌の記録（注1）

渡久地　政　一

## I　序

ずつと古い時代から沖縄各地で行われている祭事の一つに，**シヌグ**（注2）という行事がある．これは**ノロ**（神事を司る女）を中心として，村の繁栄，五穀豊饒，子孫繁昌を祈る祭事で，普通部落単位で行われている．この**シヌグ**という行事は起源が古いだけに，原始的な神事が多く，中には女の裸踊りとか，性行為につながるような神前舞踊等もあつたとの事である．そのためか尚敬王の時代（約200年前）にこの行事は禁止された事もあるという．その後本格的な**シヌグ**としての行事は，だんだん衰えてきたようだが，鎮守に対する感謝祈願の祭事として，内容的に改善された**シヌグ**の姿は，旧暦七月か八月に行われる年中行事の一つとして現在でもあちこちに残つている．

この**シヌグ**の中の行事の一つに老若の女ばかりで円陣をつくつて太鼓（直径30センチばかりの小鼓）にあわせて歌いながら踊る**臼太鼓踊り**というのがある．まことに素朴な踊りで，手を胸前に合わせたり，前に上げたり，下したりする程度の静かな円陣舞踊である．筆者が見たのは（30年前）沖縄北部の本部町字渡久地に残つている臼太鼓踊りで次に記載するのも，その時に歌われた五曲の歌詞と曲である．

渡久地の臼太鼓踊りは旧暦七月二十二日の晩に**アサギ**と称する祠堂の庭で数個の聖火（松明）の下で，群る観衆にかこまれて行われるおごそかな踊りである．東と西（渡久地の字は東組と西組にわかれている）から繰り出して来る各組の踊り手は，先頭に音頭取り二人（年輩の女で歌の上手な人で，小鼓を打ちながら歌を先導する役），その次に**ジユリグワー**と称する若い踊り手五六人（未婚の乙女で胴衣（ドゥジン）というゴバン縞の白い上着と．**カカン**という白いヒダのあるスカート風のものを着用，頭には紫色の鉢巻をして其の結び目を左横にしてたれを長くする），その次に既婚の婦人連が十数人（白地の着付の上に紺地の着物を羽織る），計二十数人が一列縦隊といういでたち．それが字の中央に位する例の祠堂の前の広場でおち合い，一つの円陣を作り終ると，いよいよ臼太鼓の踊りが始まるのである．歌の歌い出しは東西の音取り（ニードゥイ）即ち音頭とりが交互にあたる．音取りが歌い出すと他の踊り手も，それについて歌いながら踊を始めるのであるが，なかなか覚えにくい歌である上に，年に一回の行事のために歌うだけだから充分歌いこなせる人は少いようであつた．**ノロ**はこの踊りには加わらないで行事の終るまで祠堂の中に坐つて踊りを観ている．

注　渡久地の**シヌグ**（土地の人は**シニグイ**といつている）は旧暦七月十九日から始つて二十二日の臼太鼓踊りで幕を閉じるが，その間に色々の神事があるらしい．各家々から米や粟を

---

注1）本部はモトブ，渡久地はトグチ，臼太鼓は u si dē ku と発音する．

注2）古文献には「しのぐ」と書いて**シヌグ**と発音している．

集めて御神酒（濁酒）を作つて神前に供えるのもその行事の一つである．出来た御神酒は各家庭にも分配される．

## Ⅱ 臼太鼓踊りの歌

臼太鼓踊りで歌われる歌は五曲あつて，各曲に三つか四つの歌詞が準備されている．歌われる順序は次の通りである．（注3）

1．しきじ節
2．いんちゃ苧（短い苧の意）
3．天のぶり星（天の群星の意）
4．具志川ふた川（井戸の名前）
5．本部なぎ節

上記2，3，4の題名は，いずれも最初に歌われる歌詞の冒頭の文句をとつて名付けたものである．1の題名は語原もよくわからない．古老にきいてもわからない．昔からの言い伝えをそのまゝ受けついでいるにすぎないという．5の本部なぎ節は本部にちなんだ歌で，本部に生れた歌だといわれているが，「なぎ節」というのがよくわからない．本部に「投げ捨ててあつた歌」という意味だと解く人もいるが，どんなものか．その事については曲譜の解説の所にも触れておいた．

## Ⅲ 採譜について

以上の五曲を採譜したのは昭和五年の夏で，臼太鼓踊りの要員が歌の練習をしている時に行つたものである．

その時の指導にあたつた方は，仲村渠（屋号マースヤー）のおばあさん（当時八十才余）と松田（屋号マンナンヤーグヮー）のおばあさん（当時七十才前後）のお二人で，お年のわりに，はりのある若々しい美声で歌つて居られたのが今でも記憶に残つている．指導を受ける方は，いずれも中年の主婦で，声の美しい人達が集つているようだつたが，この歌には余り自信がなく，指導者の歌の後について歌える程度で，完全にこの歌が受けつがれるかどうか，いさゝか気になるものがあつた．

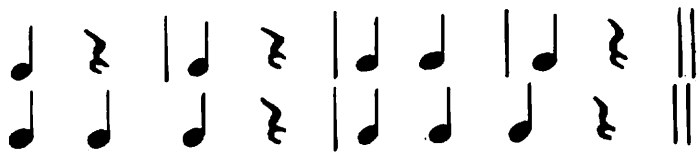
### 注　記

1．指導者の歌でも定着した決定的なものではなく，歌詞が変れば，それにつれて節まわしも少しちがう処があり，フレーズとフレーズの間の休止が伸びたり縮んだりする事は常である．それでも何十回と歌うものをきいている中には，自から普遍的なものをつかむ事が出来た．
2．琉球民謡独特のポルタメントが，ふんだんに使われるので，楽譜には特殊な符号（〜）をもつて表わす事にした．その個処は音程を急に下げて，投げ捨てるよう

注3）各歌の題名を，土地の人は下記のように呼んでいる．
1. shi ki ji bu shi　2. i n cha wū　3. ti n nu bu ri bu shi
4. gu shi cha fu ta gā　5. mu tu bu na gi bu shi

に歌い終るのである．

3．太鼓は音取りの人が拍子をとるためにたたくのであるが，至つて簡単で拍子の強弱を表わす程度のもので，リズムを細かくきざむような手のこんだ打ち方はしない．大体二拍子か四拍子の打ち方をしている．



以上のような打ち方をしているが，曲そのものに拍子感がハツキリしない個処があるので，途中で強弱が裏がえつてくる事がある．それで適宜その都度強弱を入れかえて打つ事が多い．その点次に掲げる曲譜を見たらよく解る事だが，全曲を通じて拍子のアクセントが整然としているのは少い．そのために採譜に際しても不都合な事が多かつたが，出来るだけ原曲のまゝを残したい一念から無理をして二拍子でまとめる事にしたので，曲の途中で拍子感のシックリしない個処があるのは止むを得ない．

4．歌う人の声の都合で自由な気持で歌い出すので，絶対的な音高を決める事は出来ない．それで便宜上声域に無理のない程度に「ハ調」で採譜する事にした．

5．曲譜の中の歌詞は平仮名で書き，ハヤシ言葉は片仮名で書く事にした．

6．曲譜の次に掲げてある歌詞の振仮名の中に英字で書いてあるのは，沖縄古来の正しい発音を示すためである．

zi （ズイ）と ji （ジ）
si （スイ）と shi（シ）
thi（ツイ）と chi（チ）
ti （ティ）
tu （トゥ）
di （ディ）
du（ドゥ）

言葉でも仮名づかいでも，その項には正しい方法をとつた．

7．曲の速度は，踊りとの関係で適当に定まるようだから，無理に指定する必要はないと思う．大体♩＝54～63の範囲内の速さで歌われるようである．概してゆつくりした調子で歌われる．

# 1. しきじ節
Shi ki ji bushi

サ　いーしたーぐ　ーーぬーいーしへ　イぬヨーーう
サ　あーさぎーみゃ　ーーぬーあーくへ　ツたヨーーた

ふしーたーーるーまでいん　クラササへ　ヌヨ　ーうーかき
がさーにーーくーなすが　クラササへ　ヌヨ　ーわーした

ーぶーせーーみしょうーーーーりヨ　わうしゅうーじゃーーな
ーみーやーーらびーーーーぬヨ　さにくーーなーーす

ーしーヨン　ナ　マタ　ーうーかきーーぶーせーーみーしょうへ
ーさーヨン　ナ　マタ　ーわーしたーーみーやーーらーびへ

ナーーーシタリスー　ーへ　うかきーぶーせーーみ
ナーーーシタリスー　ーへ　わしたーみーやーーら

しょうーーーーりヨ　わうしゅうーじゃーーなーしーヨン　ナ
びーーーーぬヨ　さにくーーなーーすーさーヨン　ナ

使用音階

しきじ節の歌詞（楽譜1.）

1．石なごの石の　大石なるまでも
グヌ　ヌ　ウフシ　dl n

おかけぼさへ　みしやうれ
ウカキブセ　ミ　ショ　リ

我御主　がなし
ワウシュ　ジヤ

2．あしゃぎみゃのあくた
サ　ヌ

誰が　さねくなしゅが
タ　サニク　ス

わしたみやらべの　さねくなしゅさ
ビヌ　サニク　ス

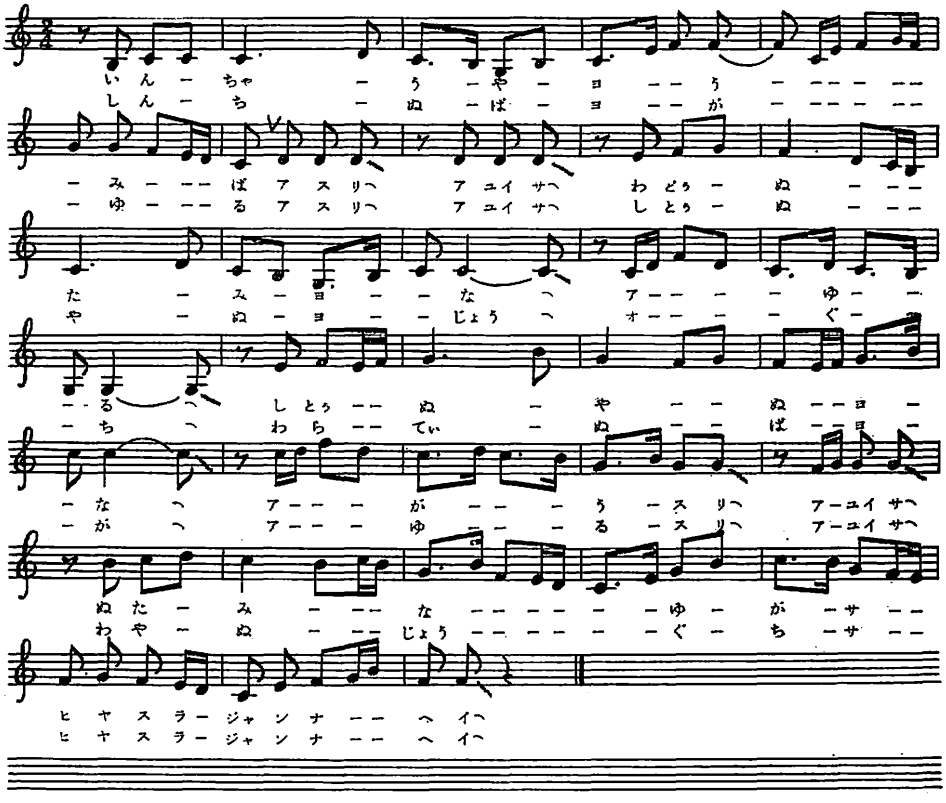
3．首里　天がなし　百年わりみしやうれ
シユユイ　tin ジヤ　ムム tu ワ　ミ　ショ　リ

おまんちゅのまぎり　拝ですでら
ウ　ヌ　ジ　wuff dl sl dl

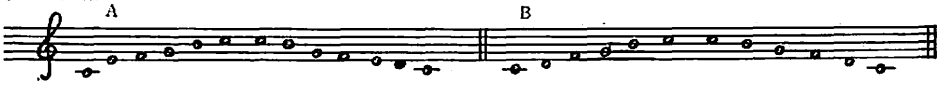
4．渡久地てる島や　だいんすとよまれる
tu グ チ tl　デ ン sl tu ユ　リ

しるくちやお嶽　中や親島
ウタキ　ウエジマ

## 2. いんちゃ 學
i n cha wū




使用音階




A，Bの音階を適当に混用している。いわば転調であるが、
こういう例は少い。

しきじ節の歌詞（楽譜1.）

1．石なごの石の　大石なるまでも
グヌヌ　ウフシ　di n

おかけぼさへ　みしやうれ
ウカキブセ　ミ　シヨ　リ

我御主　がなし
ワウシュ　ジヤ

2．あしゃぎみゃのあくた
サ　ヌ

誰が　さねくなしゅが
タ　サニク　ス

わしたみやらべの　さねくなしゅさ
ビヌ　サニク　ス

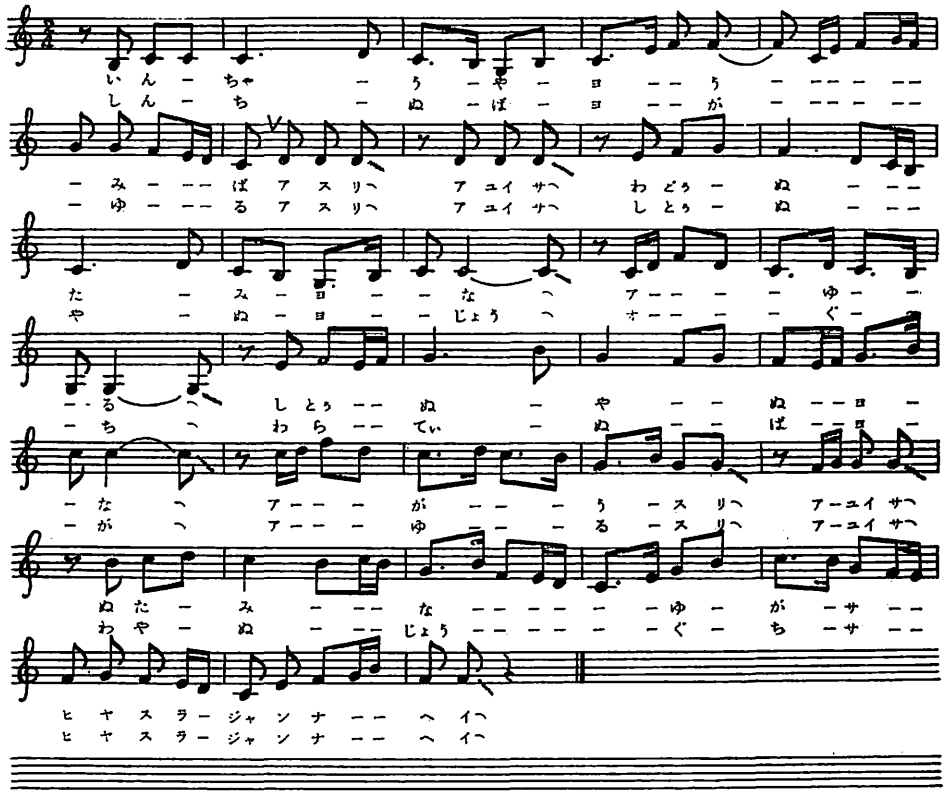
3．首里　天がなし　百年わりみしやうれ
シユユイ　tin ジヤ　ムム tu ワ　ミ　シヨ　リ

おまんちゅのまぎり　拝ですでら
ウ　ヌ　ジ　wuガ di si di

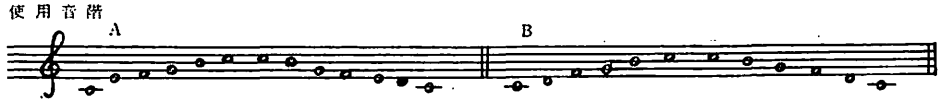
4．渡久地てる島や　だいんすとよまれる
tu グチ ti　デ ン si tu ユ　リ

しるくちやお嶽　中や親島
ウタキ　ウエジマ

## 2. いんちゃ𡚬
i n cha wū




使用音階




A，Bの音階を適当に混用している。いわば転調であるが，
こういう例は少い。

いんちゃ苧の歌詞（楽譜2.）
イ ンチ ャ wu

「いんちゃ苧」とは短かい苧との意.

この歌は別名「つなぎ節」ともいつている．音域が広いので難曲とされている.
thi ナ ジブシ

1．いんちゃ苧や　うめば
wu　um ミ

我どうのためなゆい
ワ　du ヌ　ミ

しとうの家の長苧　何ためなゆが
shi　tu　ヌ ヤ ヌ ナガ wu　nu タ ミ

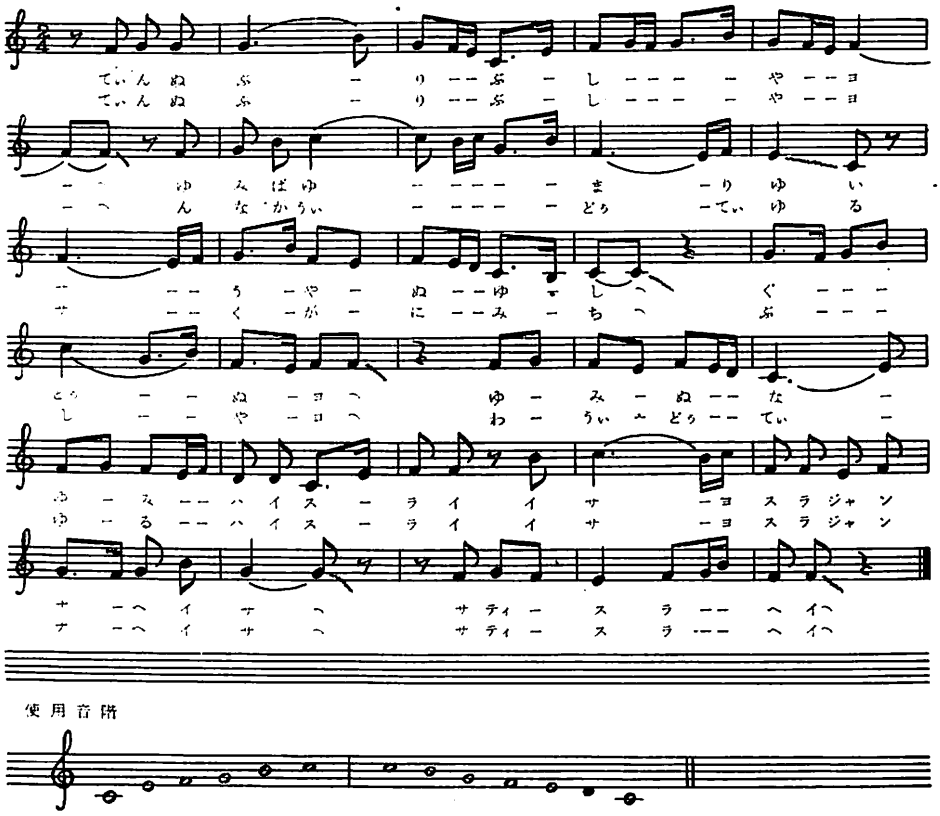
2．しんきのばがゆる　しとうの家の門口
チ ヌ　shi tu　ヌ ヤ ヌ ジョーグチ

笑てのばがゆる　我家の門口
ti ヌ　ワ ヤ ヌ ジョーグチ

3．あしからが入ゆら　袖からが入ゆら
イ　sudi

まよてうす風や　さだめぐりしゃ
ユ ti　カジ　ミ

# 3. 天のぶり星
ti n nu bu ri bushi




使用音階

天の群星の歌詞（楽譜3.）
tin ヌ プリプシ

1．天の群星や　よめばよまれゆい
tin ヌ プリプシ　ユミ　ユマリ

親の寄言の　よみのなゆみ
ウヤ ヌ ユシグtu ヌ　ユミ ヌ

2．天の群星や　みなが上ど照ゆる
ン　ウイ du ti

黄金三つ星や　我上ど照ゆる
ク ガニ ミ チ プシ　ワ ウイ du ti

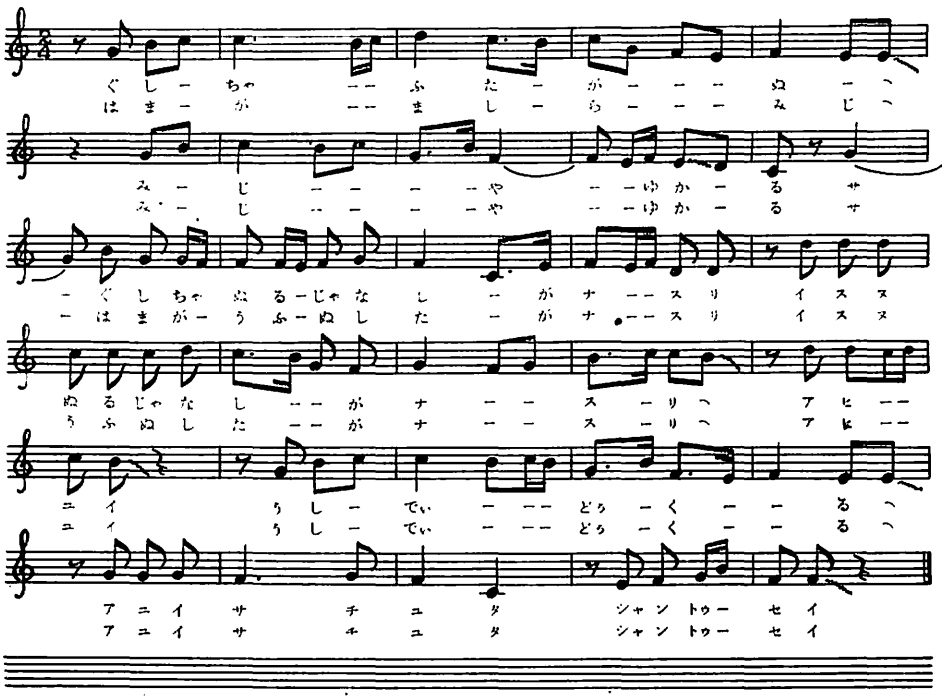
3．あの星と月と見比べて　見れば
ア ヌ プシ tu thichi tu　ビ ti　リ

あの星やうすさ　月や美しや
ヌ　si　thichi チユラ

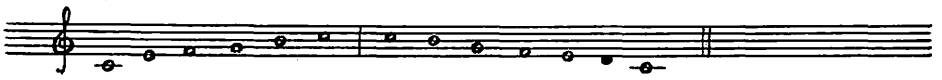
4．あきよ天川や　島横に　なたい
tin ガラ　シマ ユク

なまで来んさとや　な来んさらめ
di ク　tu　ク　ミ

# 4. ぐしちゃふたがー
gu shi cha fu ta gā




使用音階



具志川ふた川の歌詞（楽譜4.）
グシチャ　ガー

具志川という所は渡久地に移住しない前の部落のあつた地名で渡久地から約一粁北に位する．そこの近くには具志川ふた川（川は井戸の意）と浜川という二つの豊かな泉水がある．この歌は上記の泉水をたゝえる歌である．ふた川とは蓋川の意ではなかろうか．古老はこの歌を「平敷節」（フィシチブシ）ともいつているが，歌詞の詩趣が平敷節と同じである事と，ハヤシ文句が似ている事等からそう云つているだろうと思う．

曲としては余り似通つた所はない．

参考までに「平敷節」の歌詞を掲げておく．

源河はい川や　うしほか　ゆか水か
ジンカハイカワ　シユ　mizi

源河みやらべたがおすでどころ
ピ　ウ si di du ク ル

1. ぐしちゃ　ふた川の　水やよかる
ガース　mizi　ユ

ぐしちゃ　のろ　がなしいが
ヌル　ジヤ

おすで　どころ
ウ si di　du ク ル

2. 浜川　真白水　水や　よかる
ハマガー　マシラ mizi

浜川大主たーが　おすでどころ
ウフヌシ

3. 渡久地　天川の　水や　よかる
tu グチ　tin ジヤース

渡久地あんしゃりたーが

おすでどころ

この歌に使われている歌詞の形が，本来の琉歌の形，即ち八，八，八，六，の型を破つて，八，六，十，六，になつているのは面白い．最も古い型の歌ではなかろうか．

## 5. 本部なぎ節
mu tu bu na gi bushi

とうぐち　か－－－－　ら－－ヨ－　－ぬ　－－－－－
むとうぶ　ぬ－－－－　め－－ヨ－　－じゃ　－－－－－

－ぶ－－－てい　へ　ヨ－－　ハリーヨ－－－　へ
－な－－－し　へ　ヨ－－　ハリーヨ－－－　へ

はな－－－ぬ－－－　へ　ヨ－－むとう－－
ぬい－－－み－－－　へ　ヨ－－せる－－

ひなじ－－サ　ハイスリー－－ヨ－へ　イサハイ
うんま－－サ　ハイスリー－－ヨ－へ　イサハイ

スリー－－ヨ－へ　あしび　き－－－－ん－－ヨ－
スリー－－ヨ－へ　ちみや　あ－－－－や－－ヨ－

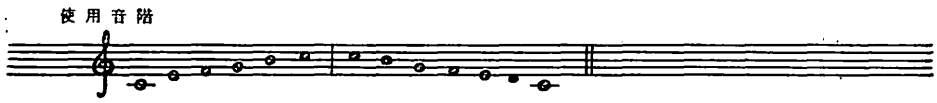
－き－－－－－－ん－－－に　へ　ヨ－－
－じ－－－－－－み－－－に　へ　ヨ－－

ハリーヨ－－－　へ　くい－－－し－－－－へ
ハリーヨ－－－　へ　まく－－－る－－－－へ

ヨ－－さち－－　むとうぶ－－サ　ハイスリー－－ヨ
ヨ－－かん－－　かんじゅ－－サ　ハイスリー－－ヨ

－へ　イサ　ハイスリー－－ヨ－へ
－へ　イサ　ハイスリー－－ヨ－へ

使用音階



本部なぎ節の歌詞（楽譜5.）
mutubu ナギブシ

1. 渡久地から登て　花のもと辺名地
tu グ チ ヌブ ti ヌ ム tu ヒ ナ ジ
遊び健堅に　恋し　崎本部
アシ キンキン クイ サチム tu ブ

2. 本部のうめがなし　乗りみせる御馬
ムtuブ ヌ メ ジヤ ナ シ ヌ イ ウ ンマ
爪やあや爪に真黒かんじゅ
thimi zimi マ クル

3. 伊平屋の　あむがなし（注6）
イ ヒ ヤ ヌ ア ン ジヤ ナ シ
わらべあむがなし
ワ ラ ビ ア ン ジヤ ナ シ
いちゃし七はなれ　御かけみせる
ナナ ハ ナ リ ウ カ キ

4. 地頭代から検者　おとりつぎみしゃうち
ジ tu デ チン シヤ ウ tu イ thi ジ ミ ショ チ
あまみ世のしのぐ（注4）
ア マ ン ユ ヌ シ ス グ
おゆるし　めしゃうれ
イユ ル シ ミ ショ リ

歌詞の2.3.4 の下の句は曲にはめると．二字不足するので，各々次のように歌う事になつている．

2.　「真黒かんじゅ」を「真黒かんかんじゅ」と歌う．
3.　「おかけ　みせみせる」
4.　「おゆるし　みしゃう　みしゃうれ」

なお一番の歌詞も，字不足をおぎなうために「恋し崎本部」になつているが，普通は琉歌そのまゝの形，即ち八，八，八，六，で次のように歌われる．

渡久地から登て　花のもと辺名地
遊び健堅に　恋し本部

この本部なぎ節は，琉球古典音楽の野村流に伝わる楽譜「エエ四」の中におさめられているが，三味線の伴奏にのせたせいか，大分曲趣が変つている．原曲の素朴さを失い，重々しい歌になつている．参考のため，次にその工工四にのせられた本部長節（工工四には本部長節と書いて「ムトゥブナギブシ」と読ましているが，曲そのものは短い曲なので，あて字の際の手ちがいかとも思われる．）の譜も五線におきかえて掲載することにした．（楽譜6．）因に工工四なるものは，ネウマの一種で，三味線の手は充分記録されているが，声楽部の方は至つて不完全なものである．これが編さんに当つたのは野村安趙翁と松村真信氏の二人で，完成したのは明治二年である．

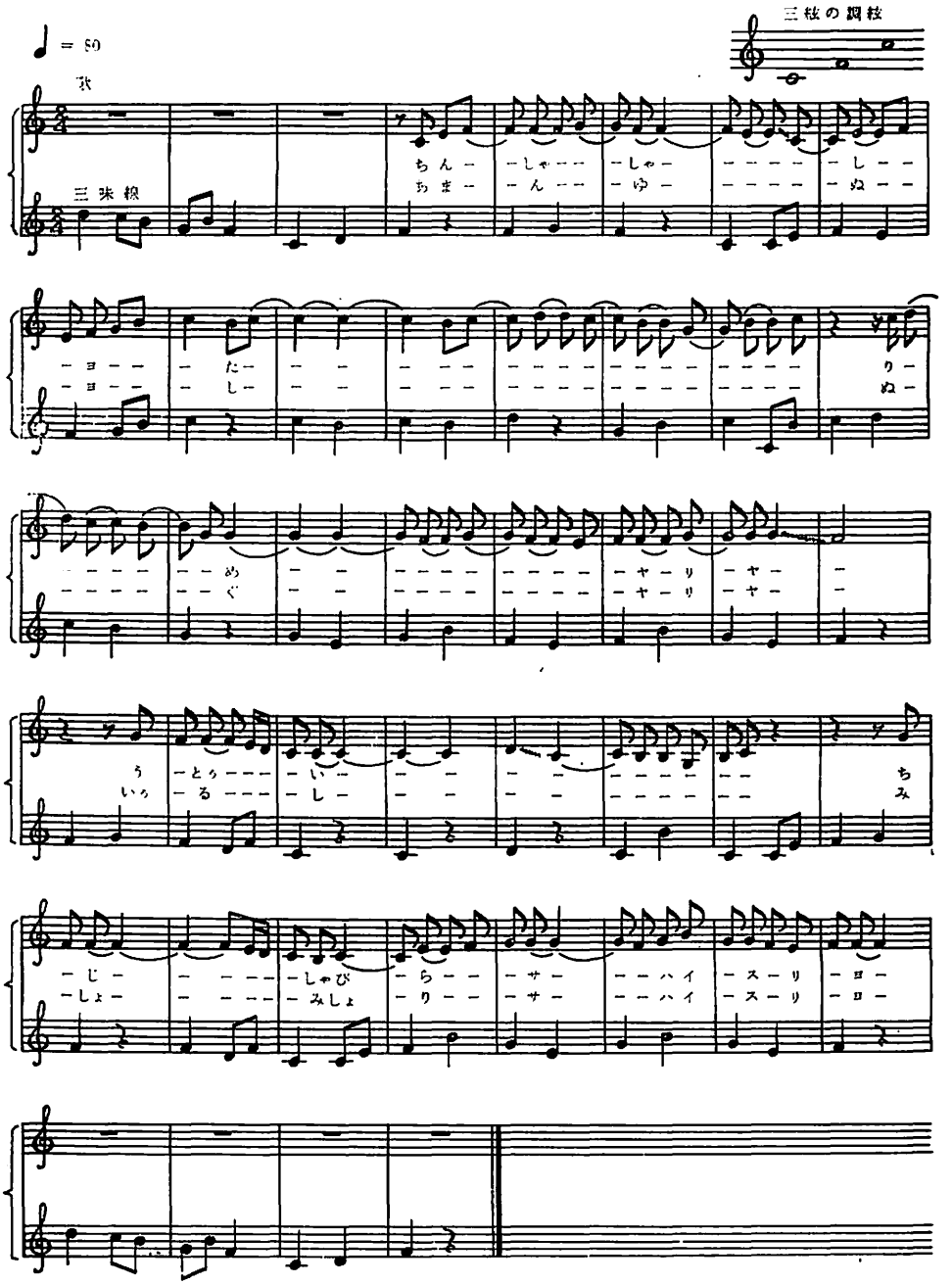
この本部長節の歌にとりあげられた歌詞は原地で歌われる本部なぎ節の四番目の歌詞とほゞ同意のものだが，言葉が大分ちがつているので念のために書いておく．

検者主したりまへ　おとりつぎしゃべら
チン シヤ シユ シ タ リ メー ウ tu イ thi ji シヤ ビ ラ
あまみ世のしのぐ
ン ユ ヌ シ ヌ グ
おゆるし　めしゃうれ（注5）
イユ ミ ショ リ

注4）地頭代も検者も昔の役人の職名．「あまみ世」は沖縄の古代
注5）「検者主」は昔の役名．「したりまへ」は敬称．
注6）「あむがなし」は〆口の上位の人

工工四（琉球音楽の楽譜）にのせられた
クンクンシー

## ・6. 本部長節
mu tu bu nagi bushi




注：上句と下句を同じ曲にのせて歌われる．

# A RECORD OF *USHIDĒKU* SONGS SUNG IN THE *SHINUGU* CEREMONY OF TOGUCHI COMMUNITY, OKINAWA

Masakazu TOGUCHI

## ABSTRACT

Among the annual events of ancient origin in the Ryukyus is a primitive ceremony called *shinugu*. This ceremony, though gradually disappearing, is still observed in some communities as a ceremony of thanks-giving and prayer to the god of fertility and prosperity. During this ceremony daces called *ushidēku* odori are played, exclusively by women of various ages, as an entertainment. Special songs are sung during the dances. It is quite probable, however, that these songs undergo transformation with a passage of years due to the facts that the songs are practiced during a short period prior to the annual event, and that the melodies of these songs are not very easy to learn.

The writer, therfore, felt it necessary that these *ushidēku* songs are kept in reliable musical notes. The present report, as an initial attempt for noting these songs in various communities, includes the scores for the five *ushidēku* songs which are all sung during the *shinugu* ceremony of Toguchi community.